

スマートシティ三鷹（仮称）の実現に向けた  
基本方針

2022（令和4）年6月

三鷹市

## スマートシティ三鷹（仮称）の実現に向けた基本方針 の策定にあたって

誰もが「三鷹市に住んでいてよかった」と感じられるような暮らしやすいまちの実現に向け、この度、『スマートシティ三鷹（仮称）の実現に向けた基本方針』（以下「基本方針」という。）を策定しました。

基本方針は、スマートシティ三鷹（仮称）の目指すべきイメージや方向性を示すとともに、その中で重点的に取り組むテーマを明らかにしたものであり、今後、実施していく施策に関して基本的な考え方を取りまとめたものです。

近年、市民生活や経済活動などの様々な場面において新たな技術を活用した変化が急速に進展しており、デジタル技術を地域課題の解決に活用し、持続可能な都市を形成する「スマートシティ」の実現に向けて様々な取り組みを進める必要があります。

三鷹市が考えるスマートシティは、市民にとって利便性が高く、かつ持続可能なまちづくりを通じ、市民の暮らしやすさを高めていくものです。デジタルが当たり前身の回りに存在する状況において、その技術を活用し、いつでもどこでも誰もが便利な行政サービスに繋がることの実現を図ります。

スマートシティの実現に向けては、社会課題の解決や行政サービスの充実が図られるようデータの利活用を進めながら、様々なテーマや分野に取り組んでいく必要があります。そのため、組織の変革や庁内人財の育成、外部人財の登用等を推進するとともに、民学産公の連携や近隣市等との連携も見据えて取り組みを推進します。

三鷹市は、デジタルを適切に活用し、市民が誰一人取り残されることなくその恩恵を享受し、暮らしやすいと感じられるまち「スマートシティ三鷹（仮称）」の実現を目指します。

2022（令和4）年6月  
三鷹市長 河村 孝

# 目次

1 検討の背景 .....	4
(1) 社会課題の多様化、複雑化 .....	4
(2) 新しい生活様式の浸透 .....	4
(3) デジタル化の原則 .....	4
(4) 全国でのスマートシティの取り組みの進展 .....	5
2 三鷹市の現状と課題 .....	6
(1) 三鷹市の取り組みの経過 .....	6
(2) 三鷹市の課題と解決の方向性 .....	6
3 スマートシティ三鷹（仮称）の実現に向けた取り組みの方向性 .....	7
(1) スマートシティ三鷹（仮称）の目指す姿 .....	7
(2) 重点テーマ .....	8
(3) 推進体制 .....	13
4 今後の進め方 .....	14

## 1 検討の背景

### (1) 社会課題の多様化、複雑化

日本は、諸外国に先んじて人口減少、少子高齢化とそれに伴う生産年齢人口の減少、都市部への人口集中が進んでいる。

また、気候変動による自然災害の増加、大型地震の発生など、近年様々な課題が顕在化している。さらに、価値観やライフスタイルに合わせて、個人ごとの課題も多様化している。

### (2) 新しい生活様式の浸透

2020（令和2）年の新型コロナウイルス感染症の世界的な流行を受け、政府は「新しい生活様式」の実践例を示した。日常生活においては、「電子決済の利用」「感染対策を講じたうえでの娯楽、スポーツの実施」、働き方の新しいスタイルとしては、「テレワーク」や「オンライン会議の活用」などが挙げられ、市民の生活は大きな転換期を迎えている。

### (3) デジタル化の原則

総務省は、地方自治体関連の各施策と関係省庁による支援策などをとりまとめた「自治体デジタル・トランスフォーメーション（DX<sup>1</sup>）推進計画」を策定し、地方自治体における新しい生活様式の実現に向けた具体的な変革の方向性を示している。

デジタル庁は、「デジタル社会の実現に向けた重点計画」の中で、今後のデジタル社会を構築するうえで必要となる構造改革のためのデジタル原則（① デジタル完結・自動化原則、② アジャイル<sup>2</sup>ガバナンス原則（機動的で柔軟なガバナンス）、③ 官民連携原則、④ 相互運用性確保原則、⑤ 共通基盤利用原則）を提示している。

自治体においても行政手続きのオンライン化といった公共サービスのデジタル化に加え、業務を原則デジタルで完結し、他自治体・民間との連携を図る取り組みを機動的・柔軟に行っていくことが求められており、地方自治体のサービスの質的向上に加えて推進体制や人財の在り方を含めた変革が必要となっている。

<sup>1</sup> DX: Digital transformation (DX) のこと。「IT の浸透が、人々の生活をあらゆる面でより良い方向に変化させる」という概念で、2004 年にスウェーデンのウメオ大学のエリック・ストルターマン教授が提唱したとされている。

<sup>2</sup> アジャイル: 「俊敏な」「すばやい」という意味。主にシステムやソフトウェア開発におけるプロジェクト開発手法の一つで、小単位で実装とテストを繰り返して開発を進めること。

#### (4) 全国でのスマートシティの取り組みの進展

全国的に幅広い分野を対象とした、データ主導のまちづくりが本格化している。総務省では、2016（平成 28）年に、都市部でビッグデータを蓄積し、分野横断的に課題解決を図るため、データ利活用を基盤とした「データ利活用型スマートシティ」の概念を打ち出した。

内閣府は、設計図となる「スマートシティリファレンスアーキテクチャ」に基づくシステム開発やデータ連携基盤の構築、規制改革や国家戦略特区制度を活用した「スーパーシティ」構想など、データ主導型のスマートシティ時代に適合した制度・システムの構築を目指すこととしている。

また、スマートシティの推進に当たっては、主に地方自治体が主体となる「行政主導型」と特定地域のまちづくり団体などが推進主体となる「エリアマネジメント型」があり、事業者・大学・地域の団体などの様々な主体と連携し、地域の特徴に合わせた体制で推進することが重要とされている。

## 2 三鷹市の現状と課題

### (1) 三鷹市の取り組みの経過

三鷹市では、1998（平成10）年に策定した「三鷹市地域情報化計画」及び2007（平成19）年に策定した「三鷹市ユビキタス・コミュニティ推進基本方針」に基づき、地域情報化の推進に向けた総合的な取り組みを行うとともに、「SOHO<sup>3</sup> CITY みたか構想」や「あすのまち・三鷹プロジェクト」など、民学産公の協働による様々な事業を展開し、情報都市づくりを推進してきた。

2012（平成24）年度～2013（平成25）年度には、総務省からの受託事業である「ICT街づくり推進事業」において、情報伝達制御システムや情報収集意思決定支援に係るシステム、帰宅困難者支援のための三鷹駅と三鷹台駅、井の頭公園駅の駅前地域の公共Wi-Fi（公衆無線LAN）整備など、災害時における通信環境の向上を図った。

また、三鷹市の防災拠点となる三鷹中央防災公園・元気創造プラザの開設に合わせて、災害時の迅速な対応のための災害情報システムや、利用者の利便性を図るための施設予約等システムを導入した。そのほか、三鷹市ホームページを中心にインターネットによる市民への情報提供を積極的に進めており、各種の手續・申請などについて対象業務の拡大を図っている。

### (2) 三鷹市の課題と解決の方向性

三鷹市では、第4次三鷹市基本計画（第2次改定）に基づき、「質の高い防災・減災のまちづくり」を施策の理念、「都市再生」と「コミュニティ創生」を施策の柱とし、重点化を図りながら各施策を推進している。そうした中で、社会状況が変化し、多様な課題が顕在化してきており、質の高い暮らしの実現や市民一人ひとりの生活に寄り添ったサービスの提供に向けて、デジタル技術を活用した業務へ転換していくことが求められている。しかし、経営資源は限られており、市単独で課題を解決していくことは困難であることから、事業者や大学、地域の団体、東京都、近隣自治体等と連携しながら、デジタル化を通して市民サービスの向上を図っていく必要がある。

全ての課題を同時に解決していくことは困難であり、重点化を図りながら施策を推進していくため、「①災害に強く、安全安心なまち」「②健康で快適な暮らし」「③子育てしやすい環境」「④参加と協働の推進」「⑤身近でつながるまちの実現」を早急に対応すべき重点テーマとして設定し、スマートシティ三鷹（仮称）の実現に向けて実証実験や実装を繰り返しながら取り組みを進めていく。

<sup>3</sup> SOHO：Small Office / Home Office（スモールオフィス・ホームオフィス）の略。パソコンなどを駆使し、自宅やマンションの一室などで仕事をする勤務形態のこと。三鷹市では「SOHO CITY みたか」を宣言し、SOHOの支援を積極的に実施している。

### 3 スマートシティ三鷹（仮称）の実現に向けた取り組みの方向性

#### （1）スマートシティ三鷹（仮称）の目指す姿

スマートシティ三鷹（仮称）の推進に当たっては、「三鷹市に住んでいてよかった」をキーワードとして、業務やシステムの標準化を図りながら、市民にとって利便性が高く、かつ持続可能なまちづくりを通じ、市民の暮らしやすさの向上を目指していく。

いつでもどこでも誰もがデジタルを活用できる環境を整備することで、生活の質の向上を享受できるまちづくりを進めていく。その一方で、誰一人取り残されることがないように市民のデジタル利用をサポートするとともに、対面でなければできないことにも配慮したきめ細かな対応を図る。

そして、重点的に取り組むテーマを設定し、将来像を見据え、デジタル技術の特性を活かしながら行政サービスの充実を図る。

また、スマートシティを推進するうえでは、データを利活用することで個人のニーズに対応した市民サービスの提供につながることを期待される一方で、個人情報保護を図り、適正に取り扱うことが求められる。データの利活用に当たっては、国のガイドラインなども参照しつつ、法令に基づきデータの取扱いルールについて検討するとともに、データ利活用基盤（プラットフォーム）の構築について研究を進める。

中・長期的には、データに基づく行政サービスの高度化、多様な市民ニーズを踏まえた新たなサービスの創出を通して、地域課題の解決や市民一人ひとりに最適なサービス提供を図る。

## (2) 重点テーマ

### ① 災害に強く、安全安心なまち

#### ➤ 課題

自然災害や感染症など、様々な危機から市民の身体、生命及び財産の安全性を確保するため、災害に強い都市基盤の整備や地域防災力の向上などが求められている。

#### ➤ 解決の方向性

災害時において、デジタル技術を活用し、被災状況などの情報を効率的かつ効果的に収集・共有し、市民へ適切な情報提供を行うことで円滑な避難誘導等につなげる。

また、デジタル技術を活用した、共助の仕組みの構築に向けた検討を進め、安全安心な環境の実現を目指す。

#### <施策例>

- ・避難所機能の充実を図るため、顔認証技術などのデジタル技術を活用したスムーズな受付・退出確認の実現
- ・スマートフォンなどで確認可能な3Dマップの作成、想定雨量などを基にしたシミュレーションによる安全安心な避難誘導
- ・データ分析やSNSなどを活用した災害対応策と誰もが使いやすい情報伝達手段の活用



#### <令和4年度の取り組み>

- ・スマートスピーカーなどを活用した災害時における情報提供や平時における見守りに関する実証
- ・要支援者を始めとする災害時の安全な避難に向けた実証



## ② 健康で快適な暮らし

### ▶ 課題

「健康寿命」の延伸や「予防」に重点を置いた取り組みを進めるとともに、様々な方々へのきめ細やかな対応、見守りの仕組みが求められている。

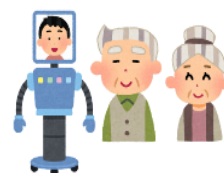
### ▶ 解決の方向性

多様な世代が、健康で快適に暮らせるようスマートフォン等を始めとしたツールの活用を図りながら、介護の質の向上に向けた研究を進め、実装に向けた実証を繰り返し、より実効性のあるものとしていく。

スマートデバイス<sup>4</sup>（ウェアラブルデバイス<sup>5</sup>）などを活用したバイタルデータ<sup>6</sup>の収集による健康状態の確認・分析、個人の健康診査結果やレセプト情報などのデータに基づく保健事業の展開など、次世代ヘルスケア<sup>7</sup>を推進する。

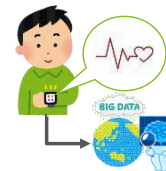
#### <施策例>

- ・アプリを活用したランニングイベント等の開催
- ・旧どんぐり山施設などにおける先進技術を活用した介護の質の向上に向けた研究
- ・スマートデバイスなどを活用したバイタルデータの収集により、健康状態を確認・分析し、市民の健康を増進



#### <令和4年度の取り組み>

- ・ロボットを活用したコミュニケーション支援、見守り
- ・旧どんぐり山施設における介護（予防）等に関する研究・実証



<sup>4</sup> スマートデバイス：パソコンのような従来からある汎用のコンピュータ製品以外で、通信機能や簡易なコンピュータを内蔵し、ソフトウェアによる高度な情報処理機能を利用できる電子機器の総称。スマートフォンなどが該当する。

<sup>5</sup> ウェアラブルデバイス：腕や頭部など、身体に装着して利用することが想定された端末のこと。装着する形態に応じて、メガネ型、時計型、リストバンド型などに分類される。

<sup>6</sup> バイタルデータ：脈拍、血圧、体温など、人体から取得できる様々な情報のこと。

<sup>7</sup> 次世代ヘルスケア：少子高齢化の進行により、医療・介護需要は拡大し、人手不足も進行している中、医療・介護現場の質の確保や生産性向上、働き方改革にもつながるよう、データやデジタルの技術革新の積極的な導入など、費用対効果の高い形での活用を推進し新たなヘルスケアサービスを創出すること。

### ③ 子育てしやすい環境

#### ➤ 課題

核家族化、共働き世帯の増加、地域とのつながりや人間関係の希薄化など、子どもを取り巻く環境は時代とともに変化しており、育児不安などの課題が顕在化してきている。地域との連携・協働などにより安心して快適に子育てできる仕組みの構築が求められている。

#### ➤ 解決の方向性

保育園の入所手続きのデジタル化などの基盤整備を図るとともに、スマートフォンアプリを用いた児童相談、予防接種の目安や月齢に合わせた子育て情報のプッシュ発信といったデジタル技術を活用することで、子育て世帯がより安心して子どもを育てられるようなまちづくりを目指す。

また、デジタル技術を活用した地域での見守り活動の仕組みを整備する。

学校教育では、スクール・コミュニティの創造を通して、児童・生徒一人ひとりのニーズに応じた教育の充実を図る。

#### <施策例>

- ・子育て情報などを発信するプッシュ型サービス<sup>8</sup>の推進
- ・保育園の入所手続きなどのオンライン申請の導入と AI・RPA<sup>9</sup>を活用した利便性向上・職員負担軽減
- ・オンライン相談窓口の設置と地域の見守りによる子どもの安全安心の確保



#### <令和4年度の取り組み>

- ・保育施設等の利用申込のオンライン化
- ・VRを活用した育児相談等の実証

<sup>8</sup> プッシュ型サービス：市役所などが住民に対して、「市役所にどんなサービスがあるのか」「何を申請すべきか」など、受けられる行政サービス情報を該当者にお知らせし、そこから簡単に手続きなどができるサービスのこと。プッシュ型行政サービスともいう。

<sup>9</sup> RPA：Robotic Process Automation の略。認知技術（ルールエンジン・機械学習・人工知能など）を活用した、主にホワイトカラー業務の効率化・自動化の取り組みのこと。人間の補完として業務を遂行することから、仮想的労働者（Digital Labor）とも言われる。

#### ④ 参加と協働の推進

##### ▶ 課題

地域の声を丁寧に拾い上げ、課題を把握し解決を図る仕組みづくりが求められている。市民等の行政への参加機会の創出を図り、市民の課題やニーズのきめ細かな把握・対応、地域の中で助け合うなど新たなコミュニティの在り方が課題となっている。

##### ▶ 解決の方向性

地域課題の解決のためには、市民と協働し、地域一体となって取り組む必要がある。そのため、三鷹市では、2021（令和3）年に三鷹市市民参加でまちづくり協議会を立ち上げ、市民とともに「対話」を行い「共感」を高め、これまでにない新たな市民参画の取り組みを展開し、未来のまちのビジョンを描くとともに、三鷹市基本構想の改正や第5次三鷹市基本計画の策定に向けた政策提案を進めている。

また、市民が中心となって活動している団体（シビックテック、NPO など）との連携を図りつつ、デジタル技術を活用した SNS<sup>10</sup>分析により「声なき声」を拾い地域課題の解決を図る取り組みや市民同士がオンライン上で議論を気軽にできる環境の整備など、新たな市民参加の手法の確立を目指す。

##### < 施策例 >

- ・ 時間や場所を問わず、市民同士がオンライン上で議論などに気軽に参加できる環境の整備
- ・ AI の活用により SNS などの三鷹市関連の投稿内容の分析
- ・ 民学産公やシビックテック、地域の団体等とのデジタル技術を活用した協働の取り組みによる地域課題の解決



##### < 令和4年度の取り組み >

- ・ オンラインツールを活用したコミュニケーション支援
- ・ SNS 等のデータ抽出、分析

<sup>10</sup> SNS : Social Networking Service の略。個人間の交流を支援するサービス（サイト）で、参加者は共通の興味、知人などをもとに様々な交流を図ることができる。

## ⑤ 身近でつながるまちの実現

### ➤ 課題

行政手続きのオンライン化や業務の自動化を進め、市民にとって利便性の高い行政サービスを提供するとともに、データの活用などを通じた新たな行政サービスの創出が求められている。

### ➤ 解決の方向性

市民の利便性の向上には、複数の行政サービスにすぐアクセスができる物理的環境の改善に加え、新しい生活様式が浸透する中において、場所や時間にとらわれず行政サービスにアクセスできる環境整備を進める。

さらに、将来的には、市役所機能を分散してより身近な場所で手続きできる環境整備を図る。

また、次世代移動サービス「MaaS<sup>11</sup>」などの移動手段の整備により、地域内の移動の効率化を図り、身近な場所で活動しやすいまちの実現を目指す。

### <施策例>

- ・公共施設でのキャッシュレス決済導入
- ・保育園入所手続きやおくやみ支援窓口の設置などオンライン手続



### 環境の整備

- ・バーチャル空間での情報発信やイベントの開催
- ・公共施設の窓口案内へのコミュニケーションロボットの活用
- ・災害時における情報伝達手段としてスマートスピーカーの活用



### 検討

- ・次世代移動サービス（MaaS）の研究・検討による、移動困難者などの移動支援や地域内移動の利便性向上、自動運転等に向けた研究



### <令和4年度の取り組み>

- ・オンライン、キャッシュレス手続の推進
- ・おくやみ支援窓口の設置
- ・データ利活用の促進

<sup>11</sup> MaaS: Mobility as a Service の略。モノとしての移動手段(モビリティ)を提供するのではなく、サービスとしての移動手段を提供しようという新たな考え方。国土交通省は「ICT を活用して交通をクラウド化し、公共交通か否か、またその運営主体にかかわらず、マイカー以外のすべての交通手段によるモビリティ(移動)を1つのサービスとしてとらえ、シームレスにつなぐ新たな「移動」の概念」と位置付けている。

### (3) 推進体制

スマートシティ三鷹（仮称）の推進においては、市だけでなく事業者や大学など様々な組織や市民との連携が必要であり、合意形成を図りながらスマートシティの実現に取り組むことが重要となる。

まずは、牽引する職員の意識を変革しデジタルリテラシーなどの向上に取り組むほか、コンソーシアム<sup>12</sup>の組成などプロジェクトに応じた組織形態を検討していく。

また、DX マイスター制度（仮称）を設け、目標とするデジタル人財像を明らかにして、中・長期的な視点でデジタル人財の育成を行っていく。

外部の専門人財として、2022（令和4）年4月にデジタル推進参与を委嘱し、高度な知見を得ながらデジタル化を進めていく。

また、地域で活躍する人財などの活用についても検討していく。

---

<sup>12</sup> コンソーシアム：共通の目的のために企業や組織がつくる共同体のこと。

## 4 今後の進め方

スマートシティ三鷹（仮称）の実現に向けた取り組みは、行政だけでなく地域に根ざした取り組みであり、多様な関係者の関与や調整が生じること、最新のデジタル技術の動向を見極めながら推進することが求められることから、段階的に推進していく。

2022（令和4）年度～2023（令和5）年度には、本方針に基づき推進体制の整備を図りながら、重点テーマを中心に実証・実装を行っていく。

2024（令和6）年度には、スマートシティ三鷹構想（仮称）の策定とともに、スマートシティの実現に向けた実行計画を策定し、取り組みを加速していく。

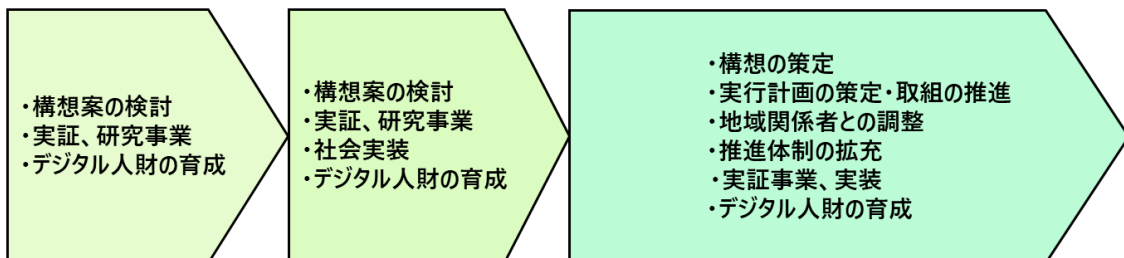
2025（令和7）年度以降は、実装するサービスを拡充させ、QOS（クオリティ・オブ・サービス）<sup>13</sup>の更なる向上を図り、他自治体等との連携を深めていく。

なお、取り組み手法として、従来の各工程を順番に進めるウォーターフォール型<sup>14</sup>の取り組みだけではなく、内容に応じ即応性が求められるものは、アジャイル型で取り組み、迅速に意思決定をしながら推進していく。

### スマートシティ三鷹の実現に向けた取組の関係

令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
第4次三鷹市基本計画		第5次三鷹市基本計画	
みらいを創る三鷹デジタル社会ビジョン スマートシティ三鷹(仮称)の実現に向けた基本方針		スマートシティ三鷹構想（仮称）	

### スマートシティ三鷹のロードマップ（予定）



<sup>13</sup> QOS（クオリティ・オブ・サービス）：「サービスの質」という意味。

<sup>14</sup> ウォーターフォール型：主にシステム開発の手法として、開発の手順を複数の工程に分割し、滝の水が上から下に落ちるように、上位の工程から順に開発を進めていく手法のこと。